

# J&T 環境グループの食品リサイクル事業とSDGsの取り組みについて

小長谷 耕平 (おばせ こうへい) J&T 環境株式会社 食品リサイクル事業部 技術室 主任部員

**要約** 廃棄物の中間処分、収集運搬事業を行う J&T 環境(株) は食品リサイクル事業を事業拡大の柱の一つと位置付けており、食品リサイクル工場を全国 6 か所に展開している。延べ処理能力は 508t/日、発電能力 6,650 kW と国内最大規模の食品リサイクル・バイオガス発電事業者である。本報では、J&T 環境グループの食品リサイクル事業の状況と、グループ内でマザー工場に位置づけられる (株)J バイオフードリサイクル横浜工場と SDGs の取り組みを紹介する。

## 1. はじめに

2020 年度に国内の食品関連事業者から排出された廃棄物量は約 1,624 万 t である。国は 2019 年 7 月に業種ごとの 2024 年度食品リサイクル率目標を設定したが、図 1 のように 2020 年度ではまだ達成できていない業種が多く、食品関連 4 産業全体のリサイクル率は 86% にとどまっている。食品リサイクル手法は優先順位が定められており、飼料化、肥料化、その他のリサイクル(メタン化によるエネルギー利用等)の順であり、飼料化(76%)、肥料化(15%)の割合が高い。

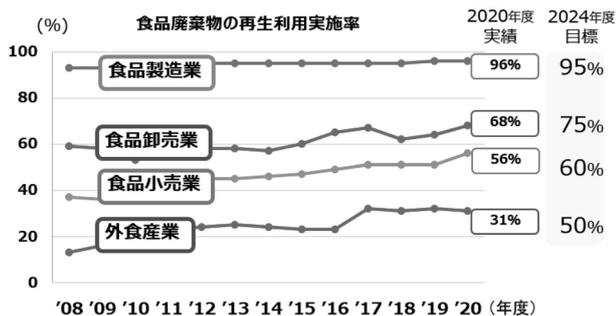


図 1 食品廃棄物のリサイクル実施率と目標値

食品流通の川上では、廃棄物への異物混入が少なく、従来より飼料、肥料に利用されていた。食品流通の川下に至るほど、容器などの異物の混入が多くなり、飼料・肥料へのリサイクルには手間がかかるため不向きとされ、これらの廃棄物は焼却処理されていた。そのため、食品小売業や外食産業では食品リサイクル率が低迷していた。一方、メタン化による処理は、分別に高い精度を必要とせずに、食品廃棄物をリサイクルす

ることができる技術であり、リサイクル率向上策として注目されている。さらに、食品廃棄物はバイオマス由来であり、発生するバイオガスで発電した場合、二酸化炭素の大気中の増加量をゼロとみなせる(カーボンニュートラル)電気を作り出すことから、環境面においても非常に注目を集めている技術である。

## 2. J&T 環境の食品リサイクル事業

J&T 環境は、食品リサイクル事業を事業拡大の柱の一つと位置付け全国に展開しており、施設能力の累積では、国内最大の食品リサイクル・バイオガス発電事業者である。図 2 に、稼働中、建設中の関連 8 施設を示す。(親会社の JFE エンジニアリング(株)が PFI 事業の代表企業として運営中の 2 施設も含む) これら 8 施設はいずれもバイオガスから発電を行い、カーボンニュートラルな電気を創出する工場である。

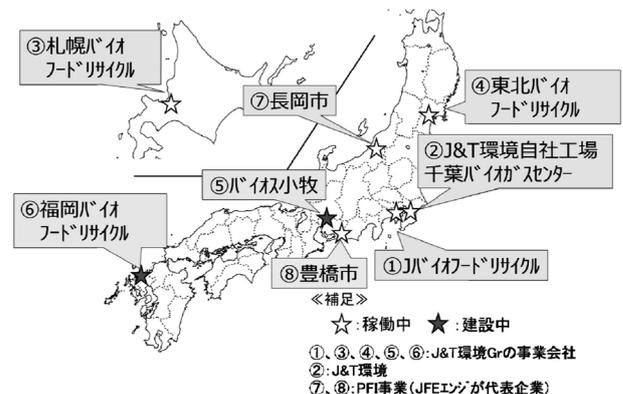


図 2 JFE エンジニアリングの食品リサイクル施設